

オマーンオフィオライトにおける上部白亜系スヘイラ層の岩相層序と放散虫化石年代 Lithostratigraphy and radiolarian age of the Upper Cretaceous Suhaylah Formation of the Oman Ophiolite

原 康祐^{1*}, 栗原 敏之²

HARA, Kousuke^{1*}, KURIHARA, Toshiyuki²

¹新潟大学理学部地質科学科, ²新潟大学大学院自然科学研究科

¹Department of Geology, Faculty of Science, Niigata University, ²Graduate School of Science and Technology, Niigata University

オマーンオフィオライトの噴出溶岩上には、遠洋性堆積物であるスヘイラ層が分布している。スヘイラ層は、下位よりアンバー（メタリフェラス堆積物）、赤色頁岩・チャート、ミクライト質石灰岩から構成される。本層については、Fleet and Robertson (1980) などにより詳しく研究され、その分布域、溶岩層との関係および堆積環境の復元が行われた。放散虫化石については、Tippit et al. (1981) により後期白亜紀 Cenomanian 前期～Santonian の放散虫化石が報告された。しかし、放散虫化石の詳細な層序分布は不明であり、報告された化石の産出層準も限られたものである。また、これ以降は放散虫による生層序学的研究は行われていない。本研究では、遠洋性堆積物の発達史とそこに記録された放散虫の進化・変遷を明らかにすることを目的とし、オマーンオフィオライト北部の Wadi Jizzi 地域においてスヘイラ層の岩相層序の記載と生層序学的検討を行った。

Wadi Jizzi 地域は、スヘイラ層の模式地となっており、下位よりアンバー、チャートを挟む赤色頁岩、ミクライト質石灰岩から構成される。アンバーは金属光沢のある暗赤紫色を呈する。層厚は3～8 m である。赤色頁岩はメタリフェラス堆積物から漸移し、下部は暗赤紫色、上部へ行くほど赤色となる。上部ではチャートの挟みも卓越するようになる。層厚は3～12 m とセクションにより変化する。ミクライト質石灰岩は、下部の1 m 程が赤褐色を呈し、上部へ行くにつれて灰緑色となる。しかし、セクションによっては、下部から上部まで一律に赤色である。葉理構造が発達し、葉理に沿って板状に割れる。層厚は9 m 以上である。

Wadi Jizzi 地域において、3つの放散虫化石群集を認識した。群集Aは、赤色頁岩中のチャートから産出した *Thanarla pulchra* (Squinabol), *Guttacapsa biacuta* (Squinabol) などから構成され、Cenomanian 後期の群集である。群集Bは、赤色頁岩とミクライト質石灰岩に認められる。 *Rhopalosyringium scissum* O'Dogherty, *Dictyomitra formosa* Squinabol などから構成され、Turonian 前期の群集である。群集Cは、ミクライト質石灰岩から産出したもので、 *Mylocercion* sp., *Schadelfusslerus* sp. などから構成される。本群集は Turonian を示すと考えられる。これらの結果から、ミクライト質石灰岩直下の赤色頁岩中には Cenomanian/Turonian 境界が存在すると考えられる。

キーワード: オマーンオフィオライト, スヘイラ層, 放散虫, 上部白亜系

Keywords: Oman Ophiolite, Suhaylah Formation, radiolarians, Upper Cretaceous